

# 水稻の生育状況と今後の管理対策（第9号）

令和7年8月21日  
新潟県農林水産部

## 〔生育概況〕

- 主要品種の出穂期（県平均\*1）は、こしいぶきで平年に比べ2日早い7月23日、コシヒカリで1日早い8月3日、新之助で平年並みの8月10日でした。

\*1 3～5ページに記載の生育調査ほの値とは異なる

## 〔気象予報と今後の生育見込み〕

- 8月21日発表の北陸地方1か月予報（8月23日から9月22日）では、気温は高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間は多いと予報されています。
- 気温の推移によっては平年よりも収穫期が早まる可能性があります。

## 〔今後の管理対策のポイント〕

- 登熟期間が高温だったため、基部未熟粒や胴割粒が発生しやすいと推定されます。さらに増加しないように、遅れずに収穫しましょう。
- 適期に収穫するために、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報、出穂後積算気温表などを参考に、必ずほ場ごとに籾の黄化割合を確認し、適期である85～90%程度で収穫しましょう。茎葉や穂軸は青くても籾は成熟している場合もありますので穂をよく観察してください。

### 早生品種

- 極早生・早生品種では、収穫期となっているほ場があります。早めに籾の黄化割合を確認し、適期に収穫しましょう。

### コシヒカリ・新之助

- 週間天気予報や2週間気温予報を確認し、高温が続く場合や降雨が少ない場合は、土壌の状態を考慮した上で、出穂期後30日まで飽水管理\*2を継続しましょう。また、用水の通水最終日に十分かん水しましょう。
- 高温が続いた場合は、白未熟粒の発生を抑えるため、収穫時期を早めましょう。

### 胴割粒対策

- 収穫期直前（籾水分が22%未満、出穂後積算気温90℃以降）に空気が乾燥すると胴割粒が増加します。
- 空気が著しく乾燥した場合は、県が「異常高温・高飽差緊急情報」を発出しますので、できる限り速やかに収穫を始めてください。
- 乾燥作業中の胴割粒の発生を防ぐため、収穫時の籾水分が低い場合には、乾燥機に張り込み後に通風循環するなど、水分ムラを解消させてから加熱乾燥を行いましょう。必ず手持ちの水分計で仕上げ水分を確認してください。

\*2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

### **熱中症予防**

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、熱中症予防対策を必ず行いましょう。
  - ・ 気温の高い時間帯に作業しない。
  - ・ 単独で作業しない。
  - ・ 休憩はこまめにとる。
  - ・ 定期的に水分・塩分を補給する。
  - ・ 帽子等で直射日光をさえぎる。
  - ・ 暑さ対策用品を活用して身体を冷やす。
- 寝不足や疲労がたまると熱中症になりやすくなるので、日頃から体調管理に十分注意しましょう。

### **農作業安全**

- 農業機械を運転するときは、ヘルメットを必ず着用しましょう。
- 収穫作業時のコンバインの転倒・転落や、タオル、衣服、軍手などの動力部への巻き込みに十分注意しましょう。
- できるだけ二人以上で作業し、やむを得ず一人で作業する場合は、家族などへ行き先を告げるとともに、緊急時に連絡がとれるよう、携帯電話を身につけておきましょう。

### **盗難防止**

- 県内で農産物の盗難被害が連続で発生しています。
- 作業場のシャッターや保管場所は施錠し、防犯カメラをつけるなど、盗難防止対策を強化してください。

## 〔補足資料〕

### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（8月15日現在）

#### コシヒカリ

○ 生育調査ほの出穂期は県平均で平年より1日早い8月3日でした。

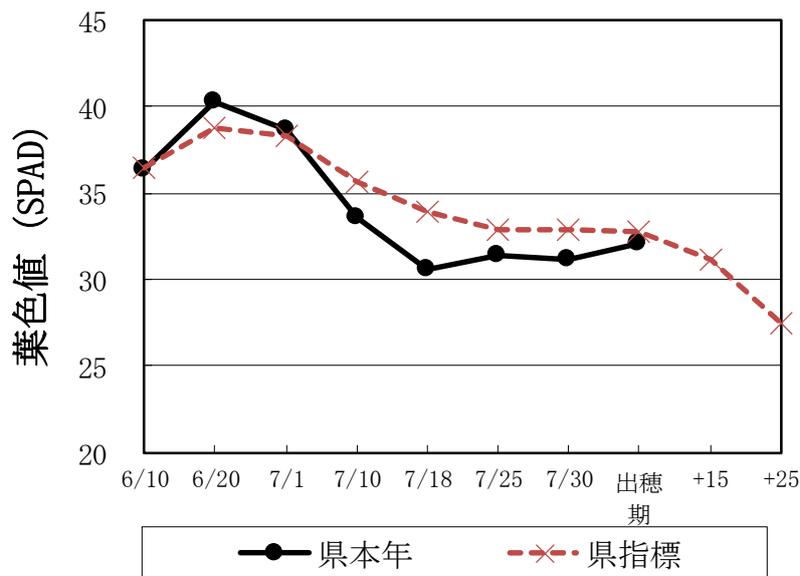
項目	本年	平年	平年差
出穂期	<b>8月3日</b>	8月4日	-1

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値（田植え5月12日、栽植密度17.2株/m<sup>2</sup>）

○ 出穂期の葉色は指標値と比べ「並」の状況でした。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値差
出穂期葉色 (SPAD値)	<b>32.1</b>	32.8	並	-0.7

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値（田植え5月12日、栽植密度17.2株/m<sup>2</sup>）



生育調査ほにおける葉色の推移

## 新 之 助

○ 生育調査ほの出穂期は県平均で平年と同じ8月11日でした。

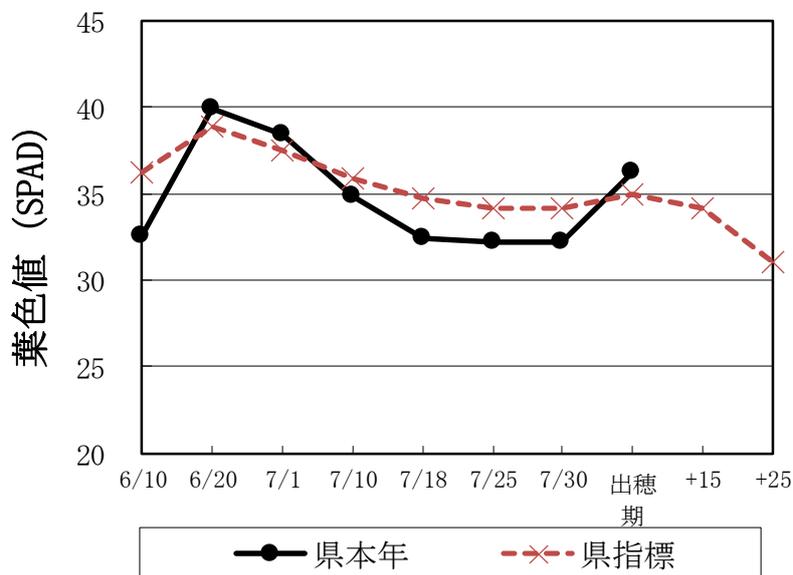
項目	本年	平年	平年差
出穂期	<b>8月11日</b>	8月11日	±0

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値(田植え5月19日、栽植密度16.7株/m<sup>2</sup>)

○ 出穂期の葉色は指標値と比べ「やや濃い」状況でした。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値差
出穂期葉色 (SPAD値)	<b>36.2</b>	35.0	やや濃い	+1.2

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値(田植え5月19日、栽植密度16.7株/m<sup>2</sup>)



生育調査ほにおける葉色の推移

## こしいぶき (参考)

○ 作物研究センターの出穂期は平年より4日早い7月23日でした。

項目	本年	平年	平年差
出穂期	7月23日	7月27日	-4

注1) 化学肥料栽培。田植え5月9日、栽植密度18.7株/㎡

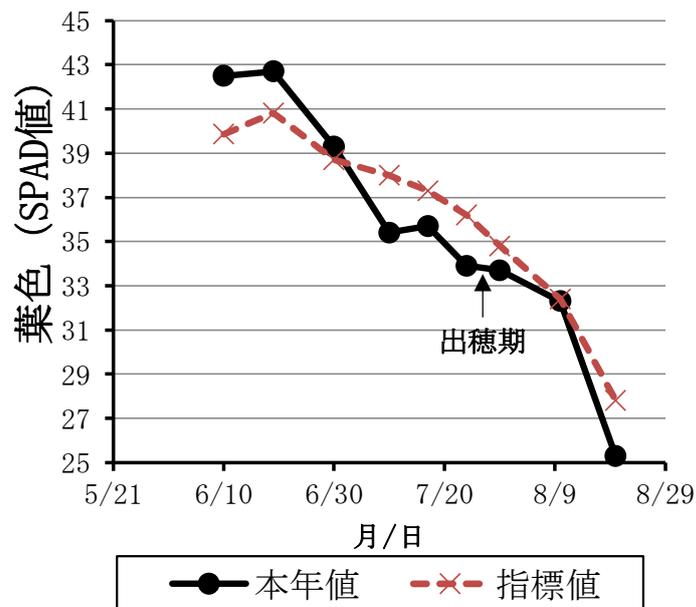
注2) 基肥窒素成分量3.0kg/10a、穂肥窒素成分量3.0kg/10a

(1.5kg×2回分施：1回目7月4日、2回目7月11日)

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

○ 作物研究センターの出穂期の葉色は指標値と比べ「やや淡い」状況でした。

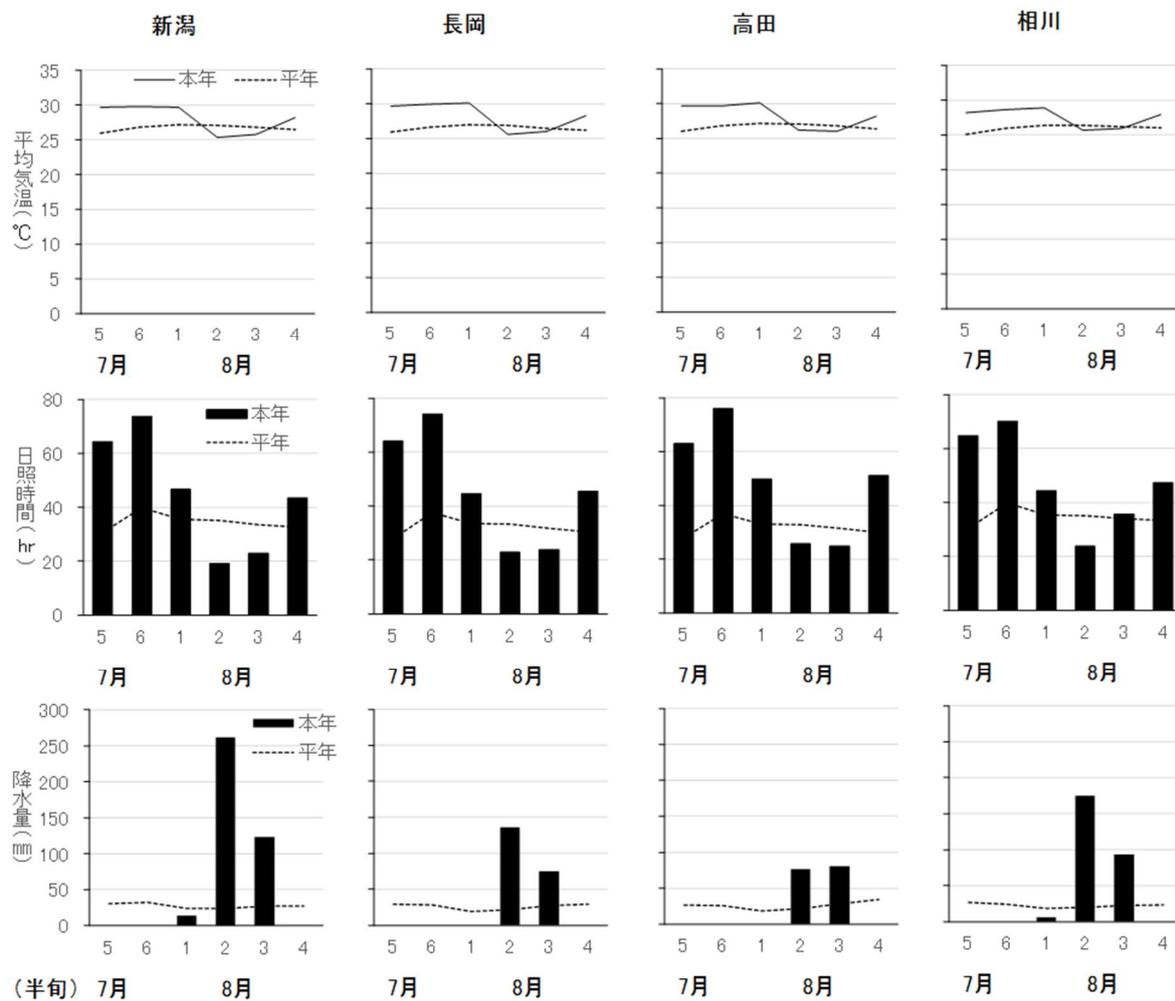
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値差
出穂期葉色 (SPAD値)	34.1	35.3	やや淡い	-1.2



## 2 気象の推移からみた収穫適期のめやす

### 気象の推移（アメダスデータ）

- 8月第1半旬までは極端な高温・少雨で推移し、8月第2～3半旬は低温傾向で大雨となった地域もありました。



## 本年の登熟気温

登熟気温の指標	コシヒカリ(8/2出穂)		
	本年	前年	平年
出穂期1～10日後の平均日最高気温	30.5	30.8	31.3
出穂期1～20日後の平均気温	27.1	28.0	26.8
出穂期5～24日後の平均気温	27.1	28.2	26.6

注1) 新潟普及指導センターの出穂期、気温データはアメダス新潟、8/20以降は2週間気温予報(新潟)の最高気温と最低気温の平均値を平均気温として算出

注2) 高温登熟年の判断のめやす

- ①出穂期1～10日後までの平均日最高気温が33℃以上(胴割粒率の増加)
- ②出穂期1～20日後までの平均気温が27℃以上(白未熟粒の多発誘因)
- ③出穂期5～24日後までの平均気温が26℃以上(基部未熟粒の多発生)

## 収穫適期のめやす

表 品種別の出穂後積算気温のめやす(平温年の場合)

熟期	品種	出穂後積算気温(℃)
早生	こしいぶき、わたぼうし、五百万石	975
	ゆきん子舞	950～1,000
	つきあかり	1,100～1,200
中生	コシヒカリ	1,000
	こがねもち	1,000
晩生	越淡麗、いただき	1,000～1,050
	新之助、あきだわら	1,050～1,100

注1) 出穂後積算気温は、出穂期の翌日から起算する。

- 出穂期後10日間の最高気温が高温(概ね33℃以上)の場合や、登熟後半が高温条件となって籾水分の低下が早く、立毛胴割れの発生が懸念される場合には、収穫開始を50℃程度(2日程度)早め、遅れずに収穫してください。
- コシヒカリは、登熟期が高温の場合、刈り遅れにより基部未熟粒等が増加するので、玄米品質の低下を防ぐため、収穫開始を早めることを検討し、適期に収穫してください。
  - ①出穂期5～24日後までの平均気温が26℃以上、27℃未満の場合には、50℃程度(2日程度)早める。
  - ②出穂期5～24日後までの平均気温が27℃以上の場合には、100℃程度(4日程度)早める。